

日本医師会は、「長生きしてよかった」と 思える高齢者のための医療制度を提言します。

私たちが提言する「高齢者(75歳以上)のための医療制度」の最大の特長は、

1. 75歳以上の方に手厚い制度です。

2. 今までと同じ医療が受けられます。

若いちはおおむね健康で、病気をしにくいものです。

だから、そういう間は「みんなの中の誰かのリスク」に「みんなで備える保険」は有効です。

でも年をとれば誰だって病気になりやすく、治りにくく、ケガだってしやすくなります。

リスクが特に高い75歳以上の方を対象にした保険では、保険料も高くなります。

そのために受けられる医療が制限される恐れもあります。

お年寄りになるほど、病気やケガのリスクに「保険」で備えるというのは難しいのです。

ですから日本医師会は、今までがんばって国をささえてくれた高齢者の方々には「保険」ではなく、

国の責務として「保障」という理念のもとに、制限を受けることなく医療を受けていただくべきと主張してきました。

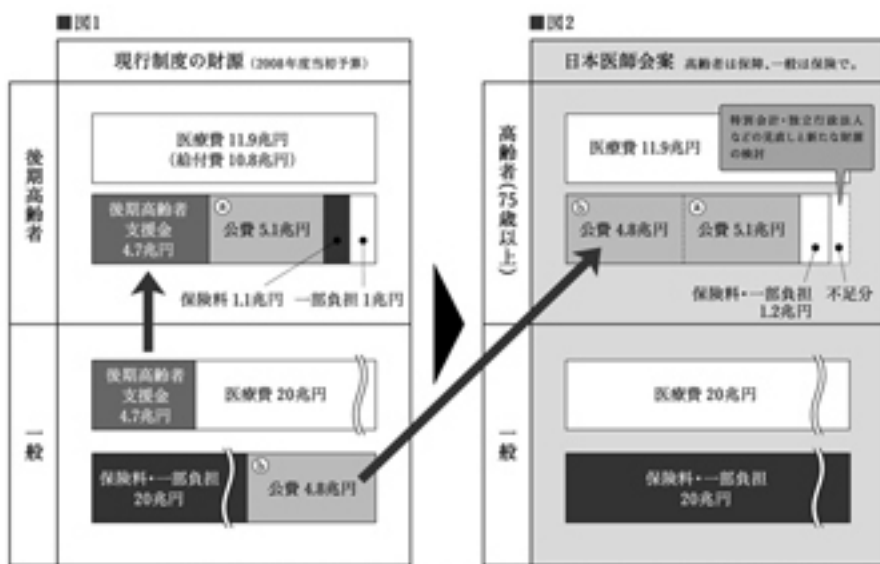
それは、具体的には、こういうことです。



3. 高齢者に必要な医療費の9割は、公費(主に国)で負担します。

4. 高齢者の家計負担(保険料と一部負担)は、
医療費の1割だけです。保険料負担は極力小さくします。

では、なぜそんなことが可能なのでしょうか?



こうした財源の見直しをいかに重ね、ムダを省き、格差や不公平を是正すれば、誰もが安心できる医療制度をつくることは可能です。
ぜひ、みなさんの声をお聞かせください。

日本医師会